

## 第2回 水辺とまちのソーシャルデザイン懇談会 次第

日時：平成26年1月16日（木）10:00～12:00

場所：公益財団法人リバーフロント研究所A B会議室

### 【議 事】

1. 第1回懇談会の議事概要について
2. 事例紹介
  - ①井出コメンテーター
  - ②紫牟田コメンテーター
  - ③中島コメンテーター
3. 意見交換
4. その他

### 【資料目次】

- ・ 議事次第
- ・ コメンテーターリスト
- ・ 席次表
- ・ 資料1「第1回懇談会議事概要」
- ・ 資料2「事例紹介資料」
- ・ 資料3「議論のたたき台」
- ・ 資料4「スケジュール案」
- ・ 参考資料1「参考データ」
- ・ 参考資料2「日本の水辺と世界の水辺（第1回懇談会配布）」

「水辺とまちのソーシャルデザイン懇談会」  
 コメンテーターリスト

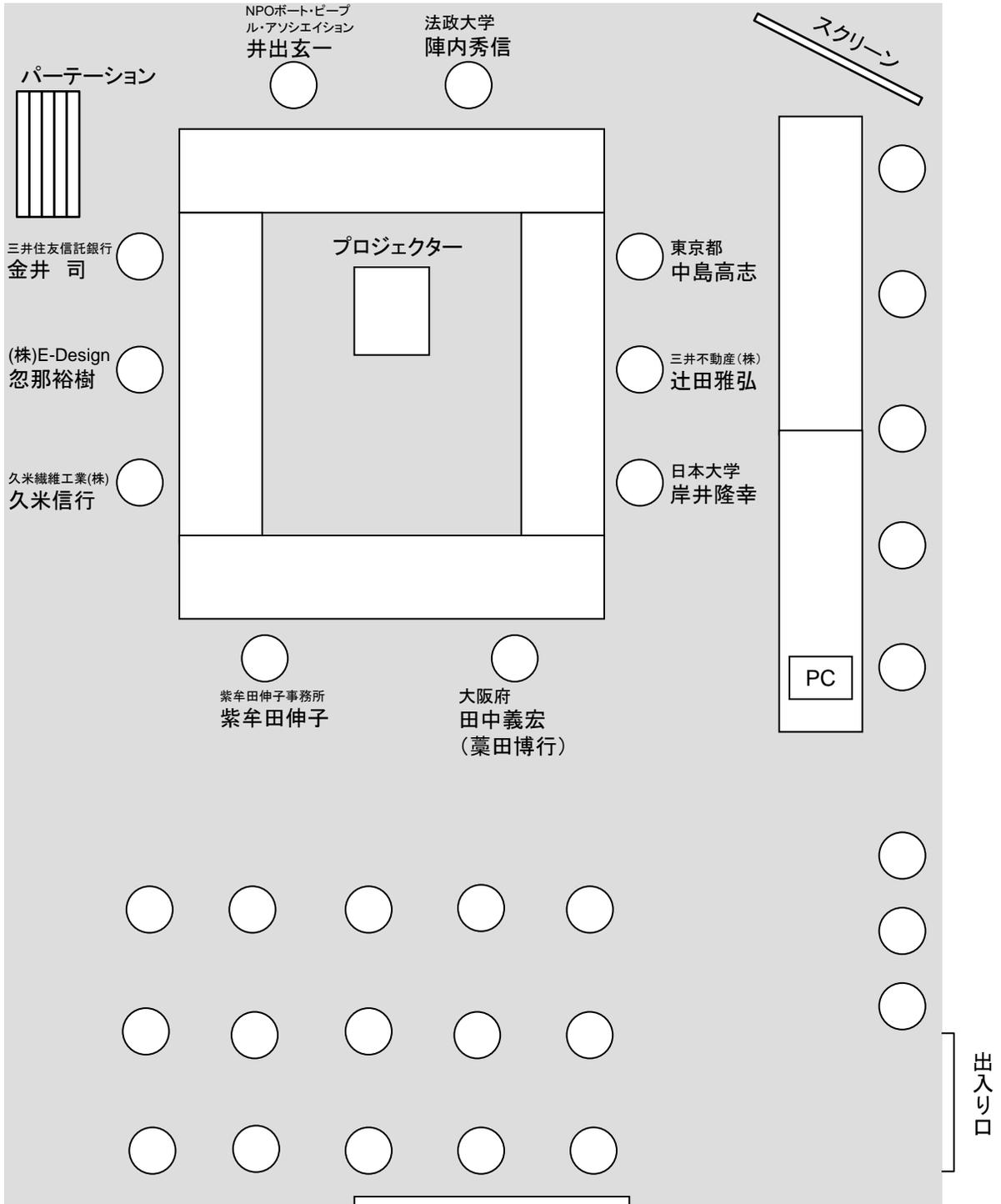
(敬称略・50音順)

	氏名	所属	第2回出欠
座長	陣内 秀信 <small>じんない ひでのぶ</small>	法政大学デザイン工学部建築学科教授	○
コメンテーター	井出 玄一 <small>いで げんいち</small>	一般社団法人ボート・ピープル・アソシエーション代表理事	○
〃	伊藤 香織 <small>いとう かおり</small>	東京理科大学理工学部建築学科准教授	×
〃	金井 つかさ <small>かない つかさ</small>	三井住友信託銀行株式会社理事・CSR担当部長	○
〃	岸井 隆幸 <small>きしい たかゆき</small>	日本大学理工学部土木工学科教授	○ (11時～)
〃	忽那 裕樹 <small>くつな ひろき</small>	株式会社E-design 代表取締役	○
〃	久米 信行 <small>くめ のぶゆき</small>	久米繊維工業株式会社取締役会長	○
〃	紫牟田 伸子 <small>しむた のぶこ</small>	紫牟田伸子事務所代表	○
〃	田中 義宏 <small>たなか よしひろ</small>	大阪府都市整備部技監	○ (代理：栗田博行)
〃	辻田 昌弘 <small>つじた まさひろ</small>	三井不動産株式会社S&E総合研究所長	○
〃	遠山 正道 <small>とよやま まさみち</small>	株式会社スマイルズ代表取締役社長	×
〃	中島 高志 <small>なかじま たかし</small>	東京都建設局河川部長	○

# 第2回 水辺とまちのソーシャルデザイン懇談会 席次

日時: 平成26年1月16日 (木) 10:00~12:00

場所: 公益財団法人リバーフロント研究所AB会議室



## 第 1 回水辺とまちのソーシャルデザイン懇談会 議事概要

1. 日時：平成 25 年 12 月 27 日（金）13:00～15:00

2. 場所：災害対策支援船「あらかわ号」

3. 出席者：別紙

### 4. 議事の内容

#### (1) 船上視察

- ① 河川環境課長挨拶
- ② 二天門船着場から浜離宮まで隅田川を船上視察

#### (2) 趣旨説明

- ・事務局より懇談会の趣旨説明を行うとともに「水辺とまちの未来創造プロジェクト」の各取組みについて説明。

#### (3) コメンテーター自己紹介

- 〇〇：これまで東京の川を見てきた。品川・芝浦は土地利用が変化しているが、隅田川・神田川は意外に時がとまっている状態。イベントや舟運などソフト面はよくなってきたが、事業部門はあまり参加していない。また、問題は民間企業が参加しなかったことで、これは大阪と異なる。川とまちを結びつけるというコンセプトは重要である。大阪の水辺には色気がある。
- 〇〇：都市の水辺、都市の水辺に新しい水上経験をつくる、ということに着目して活動している。元々個人的に水辺や船に興味があるところから始まっているが、個人の楽しみと行政の管理にコンフリクトがあると考え。東京の都心の水辺は世界で最も面白い場所で、ポテンシャルが高いと考える。
- 〇〇：シビックプライド研究会や東京ピクニッククラブなどで、ウォーターフロントの陸側で活動をしている。公共空間やそこでの出来事のデザインは、都市に受け入れられていると感じられるかどうかを大きく左右する。公共空間を手がかりにまちに関わることができれば、まちに対する誇りが醸成される。都市のウェルカム感の表現も大事だろう。公共空間のような「みんなのもの」は、「自分のもの」でないと捉えられ、結局「誰のものでもなく」なりがち。しかし、ユーザの手に

公共空間を取り戻したい。大阪では使いながら水辺を変えつつあり、少々うらやましく感じる。東京の公共空間を水辺から変えていくきっかけになれば嬉しい。

- 〇〇：一般的に事業が投融資の対象になるにはキャッシュフローが確保されているかどうかのポイント。再生可能エネルギーの全量買い取り制度が導入され、誰も見向きもしなかった土地ほどメガソーラーの立地に適しているため突然キャッシュフローを生み出すようになったように、打つ政策次第では無から有が生まれることもある。既存の建築物が立ち並ぶ都市の水辺の再構築には、キャッシュフローを向上させるためのリノベーションがポイントになると思うが、不動産と金融と言う視点からアイデアも出していきたい。
- 〇〇：行政内では、一方でやれそうな流れになっても、もう一方で反対されて実現しないことがよくある。熊本でうまくいった事例があるが、河川、道路、再開発、全て同じ事務所から発注されるというのが大事。また、中央と現場との感覚にずれがあるので、そこを乗り越えてほしい。
- 〇〇：まちを使いこなして楽しみ方を共有すること、その舞台となる環境の形成、そして、それを支える仕組みづくりが必要である。また、そのプロセスに関われることが、まちに誇りを持つことに重要な視点である。水都大阪では民間の提案から実現に結びつけていくという流れを今年から作っている。また、「川を表側にしていく」「水辺からまち全体を使いこなす」「各種事業を協働する」「活動を支えるサポーターの教育を行う」「イベントから日常に広めていく」「府、市、民間、ひとつになってやっていく」「水辺に接した空いている土地を最大限利用する」などの考えで提案をしている。
- 〇〇：川は右岸左岸や橋の東西で違う文化をつくっているのが面白い。お金を使わないでどうやってファンドレイジングしながら面白い事をやるかに関心を持っている。四万十川の砂浜美術館を参考に隅田川河口でやりたいと考えている。ファミリーがくるような仕組みづくりが重要。自転車で川を走るときに、行きか帰りのどちらかを船で運んでくれるようになると利用が高まると思う。川から生活が見えるようになると面白い。川沿いに（生活に密着した）マーケットができないかと考える。日本財団 CANPAN (NPO の情報ネットワーク) の理事などもやっており、様々な橋渡しをする役割と考えている。
- 〇〇：企業や地域のモノづくり、誇りをどのように作っていくか、ということに関わってきたが、まちづくりの活動も広がってきた。デザインを受け取る側がいつ、どのように、どうやって受け取るかが重要と考える。いかにまちづくりの計画を地域に伝えていくか。日々目にしているものと記憶とをどのようにつなげてアプロ

ーチしていくかに興味がある。隅田川は色々なバリエーションを楽しめる川なので、それをつなぎながらどうやって伝えていくか楽しみに思っている。また、人に伝えるときにモデル事業がすごく重要。

- 〇〇：水都大阪系の仕事をしている。道頓堀に長く携わっており、「新しいこと、とんでもないことをやりたい」という想いはある。場所により分けて考える必要があると考えており、都市では、民間参入と持続可能な仕組みづくりが必要と考える。色々な取組みを行おうとすると役所的にはどこが何を負担するかなどで問題になることもある。
- 〇〇：諸外国だと船が通勤手段など日常生活にとけ込んでいる。また、オリンピックは海辺に施設があり、地下鉄の延伸や橋を架けるなどの話もありお金や時間もかかると考えられるが、それらと並行して、水運に光を当てて考える必要があるという問題意識を持っている。
- 〇〇：河川は安全第一が使命であるが、貴重なオープンスペースでありうまく活用していきたい。日常的空間と非日常的空間の2つの側面があり、利用方法が異なる。前者は居住者の散策など。後者はスカイツリー周りなど外からの人にどのようにアピールするかなどが重要になると考える。二天門のオープンカフェの取組みもその一環として実施した。

#### (4) その他

- ・事務局より今後の予定について説明するとともに議論のポイント案について示し、次回の議論にしたい旨の説明。

## 第1回 水辺とまちのソーシャルデザイン懇談会 出席者

(敬称略・50音順)

	氏名	所属	出欠
コメンテーター	井出 玄一	一般社団法人ボート・ピープル・アソシエーション代表理事	○
コメンテーター	伊藤 香織	東京理科大学工学部建築学科准教授	○
コメンテーター	金井 司	三井住友信託銀行株式会社理事・CSR担当部長	○
コメンテーター	岸井 隆幸	日本大学工学部土木工学科教授	○
コメンテーター	忽那 裕樹	株式会社 E-design 代表取締役	○
コメンテーター	久米 信行	久米繊維工業株式会社取締役会長	○
コメンテーター	紫牟田伸子	紫牟田伸子事務所代表	○
コメンテーター (座長)	陣内 秀信	法政大学デザイン工学部建築学科教授	○
コメンテーター	藁田 博行 (代理)	大阪府都市整備部河川室河川環境課長	○
コメンテーター	辻田 昌弘	三井不動産株式会社 S & E 総合研究所長	○
コメンテーター	遠山 正道	株式会社スマイルズ代表取締役社長	×
コメンテーター	中島 高志	東京都建設局河川部長	○
アドバイザー	渥美 雅裕	国土交通省水管理・国土保全局河川環境課課長	○
アドバイザー	藤井 政人	国土交通省水管理・国土保全局河川環境課河川環境保全調整官	○



## 本日お話ししたいこと

- ・ BPA活動紹介(さらっと)  
+
- ・ 水辺の現状と課題
  - ・ 水辺とは
  - ・ 船とは
- ・ パブリック・スペース
- ・ クリエイティビティー(創造性)
  - ・ プリンシパルの確認

Project File #3

## 水上ラウンジ L.O.B (Life On Board)

Shibaura, Tokyo

Completion: April 1999

全長: 18m

席数: 32席

設備: キッチン、ラウンジ、バーカウンター、トイレ、化粧室、薪ストーブ (暖房)



東京港の運河に放置されていたバージ船（物資運搬船）を改装し、運河に浮かぶ異次元空間バーとしてプロデュースした。座席数32席。飲物と軽食をサーブするためのキッチンを備え、パーティーや音楽ライブなどを行うこともできる。タグボートで曳航すれば運河沿いに移動することができるため、空間と時間の中をさまざまな移動式バーとも言える。

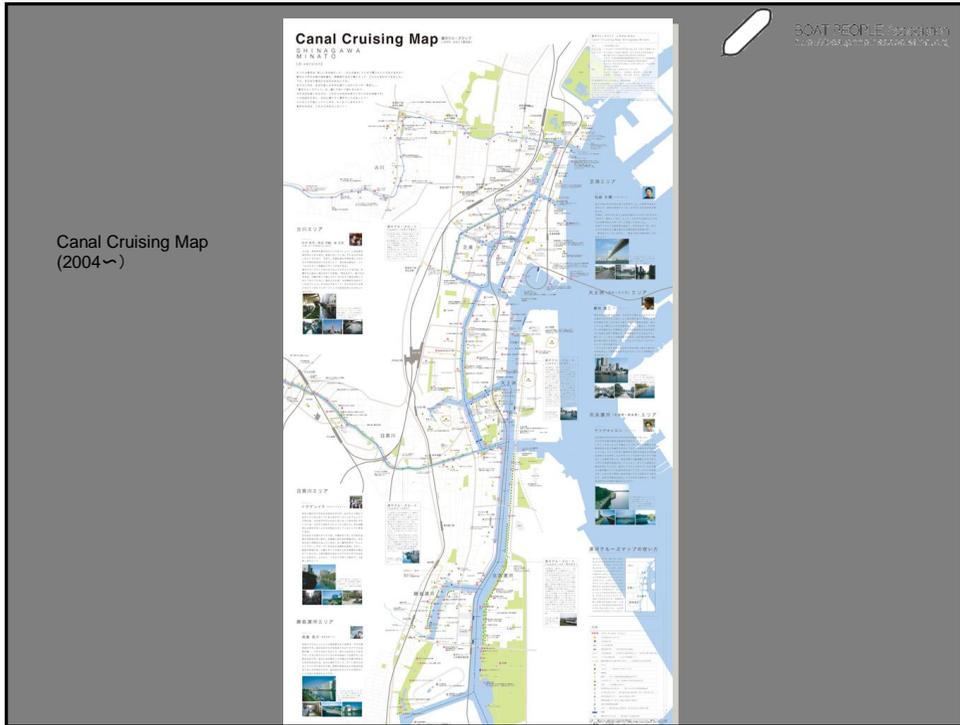


## Canal Cruising Map Workshop (2006)



BOAT PEOPLE  
<http://www.boatpeople.jp/>











BOAT PEOPLE Association  
<http://boatpeopleassociation.org>

LIFE ON BOARD TOKYO  
09-10  
神田アイランドクルーズ



BOAT PEOPLE Association  
<http://boatpeopleassociation.org>

LIFE ON BOARD TOKYO  
東京低地クルーズ  
2009/11/28





ボートと野菜が東京を救う

2010年3月22日



東京で大地震が発生すると陸上交通は完全に麻痺してしまう。そうした中救助や救援物資は水上交通が担うことが予想される。水上交通を普段から使いこなしておくことがサバイバルにつながる。東京湾の各地から食材を船で運び、都心の水辺で朝市を開催した。



船橋から運んだ  
食材を小型船に  
載せ換え

救援キャンプ  
よりさらに奥地に  
運河を利用し  
船で食材を届けに  
行く



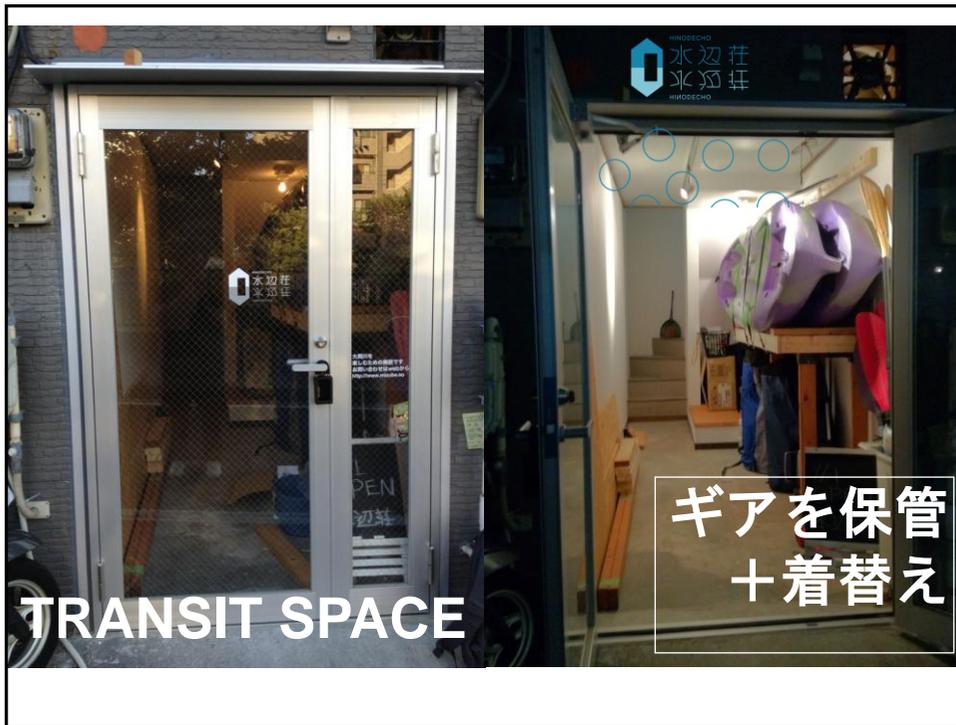


水辺荘  
平塚荘  
HINOECHHO

黄金町「桜棧橋」 “使い倒し” 提案

地縁型水辺NPOとの連携  
陸との繋がりを求めて

Two photographs at the bottom of the slide. The left one shows a waterfront area with several multi-story apartment buildings and a concrete walkway. A red boat is docked at the water's edge. The right one shows a river flowing through a city, with a concrete wall on the left bank and a bridge in the distance. A group of people in a red boat is on the water.



## 水辺の現状と課題

- ・ 東京の水辺は世界で一番面白い  
Ex) 入り組んだ首都高、工場、団地、近代的都市の混在  
京浜運河は20世紀の“世界の工場”
- ・ しかし、世界で一番自由度が低い  
= 訪れる人少ない  
= クリエイティブ性がない
- ・ 水辺が分断され限定的に捉えられている  
Ex) 海と川と港、行政的区分、水面側、陸側など
  - ・ PUBLIC ≠ 私たち利用者  
= 業界や既得権益者、広く浅い不特定多数の声

BPA的

# 水辺とは.....

水面  
+  
陸地  
+  
人の暮らし

BPA的

# 水辺とは.....

水面 = 近所の用水路から太平洋まで

+

陸地 = 背後地から山の麓まで

+

人の暮らし = カルチャー = まち = PUBLIC



葉山の海の家的なゆるい

コミュニティの創出

公共のオルタナティブ

又はリビングの拡張

BPA的

# 船とは・・・

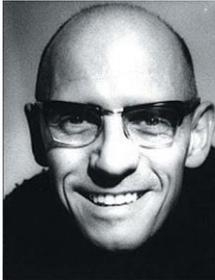


移動・運搬の手段。さらに・・・

- ・ 人と人をつなげるコミュニケーション・ツール
  - ・ 人の思考を揺るがせる装置
- ・ 人と水面と陸のつながりを強めるツール
  - ・ 『ヘテロトピア』

→人をクリエイティブにする装置

# 船とは・・・



ミシェル・フーコー  
(仏哲学者 1926年-1984年)

= ヘテロトピア  
Heterotopia

日常の延長線上にあるが、  
日常から切り離された理想郷。

例) 博物館、図書館、学校、病院、テーマパーク、船

## クリエイティブ都市論と水辺

仮説: クリエイティブな水辺が都市の国際競争力を決定する



“現代のクリエイティブ経済における経済成長の真の原動力とは、  
才能と生産性に満ちた人々の蓄積と集中化である。彼らが特定の  
地域に寄り集まって住むことで、新しいアイデアが生まれ、その地  
域の生産性は増加する。”

『クリエイティブ都市論—創造性は居心地のよい場所を求める』  
リチャード・フロリダ (著)

# プリンシパルの確認

(理想論と原則論たっぷりです…)

## ■ 水辺幸福追求権

すべての人は水辺で幸せになってしまう権利がある

## ■ 自己責任の原則

水辺では自己の安全管理は自分で行う＝シーマンシップ

## ■ 航行の自由の原則

すべての人は水面を自由に通行する権利がある

## ■ 水辺自由使用の原則

水辺はパブリック・スペースであり、誰もが自由に使える

# 都市と水辺とシビックプライド

2013年1月16日

紫牟田伸子

Creative management, SJ

# シビックプライド研究会

## シビックプライド研究会

2005年に発足。アート、デザイン、建築、広告などの異なる分野から都市再生・都市開発、地域経済活性化に携わるメンバーが参加。

主にヨーロッパの都市調査、事例研究を通して、シビックプライド(都市に対する自負)を醸成するコミュニケーションのデザインについての研究を行う。

2008年11月、それまでの研究成果を『シビックプライド:都市のコミュニケーションをデザインする』(宣伝会議)にまとめた。

メンバーそれぞれの講演や活動のほか、研究会としては月1回の研究会を開催。2009年より地域アイデンティティ構築戦略立案などの業務依頼(足立区、千代田区、新潟市ほか)を受ける。

2010年より、BANKART(横浜市/2010年)、松山市、西条市(ともに2011年)などで、ワークショップ形式の「シビックプライド講座」を開講している。



BANKART(横浜)での  
「シビックプライド講座」  
の様子

あなたのまちは  
愛されていますか？

あなたはこれから  
どのまちを選びますか？

# 「シビックプライド(civic pride)」

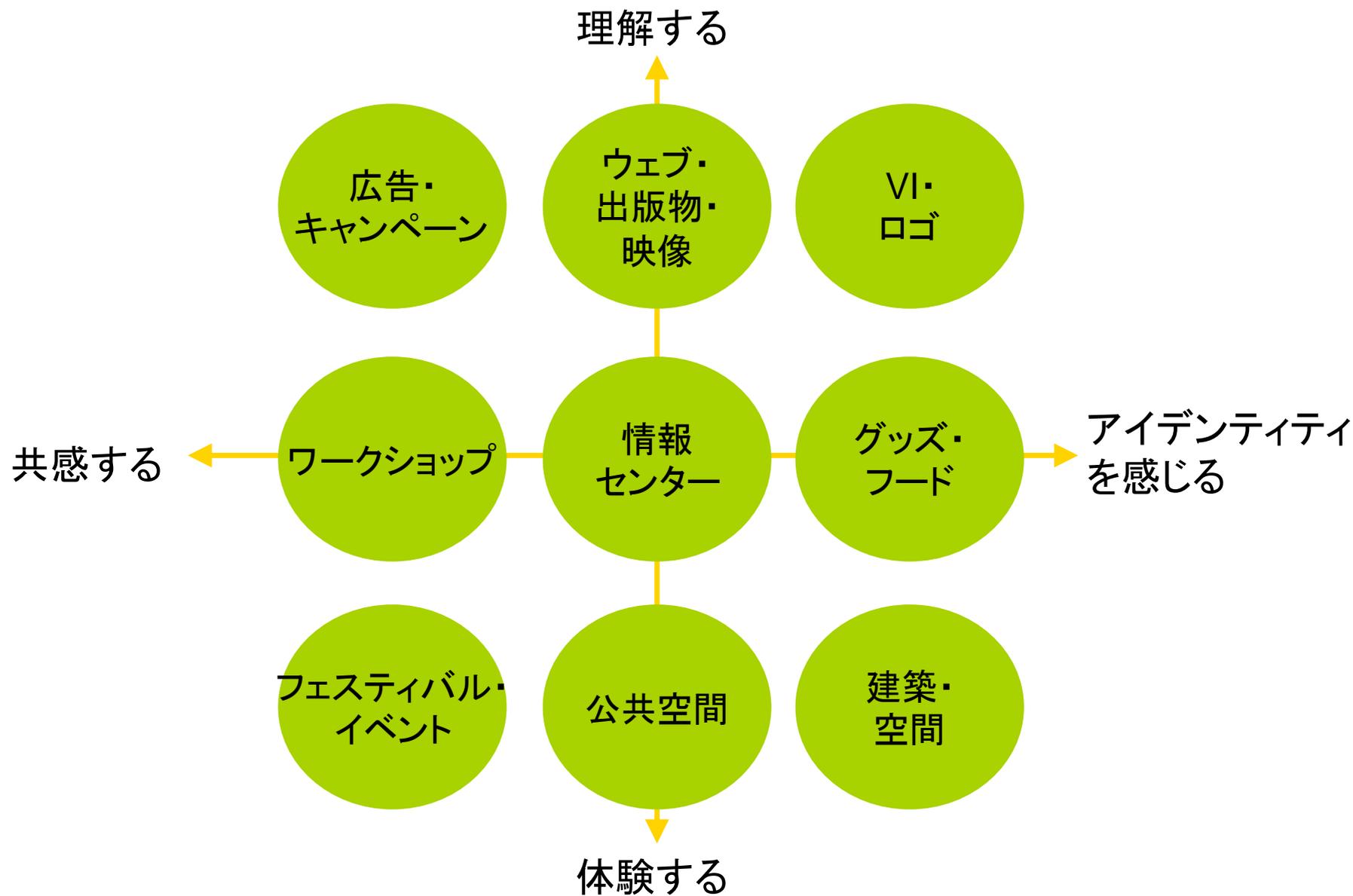
**シビックプライドは、**  
都市に対する誇りや愛着

ここをより良い場所にするために  
自分自身が関わっているという  
意識を伴う

**当事者意識にもとづく自負心**  
といえる。



# まちと人のコミュニケーションポイント



## 「シビックプライド」の発祥は、産業革命時のイギリス

シビックプライドがなければ、互いを尊重し自治能力を持つコミュニティへの意欲は頓挫してしまう。シビックプライドによって、その**動機、ひらめき、報い**がもたらされる。シビックプライドは、**集団の行動や個人の自発性**の原動力である。...

シビックプライドを押しつけることはできない。**シビックプライド育まれなければならない**。シビックプライドは地域のビジョンであり、国のマスタープランではない。...

初代・英国地域社会および地方政府大臣  
デイヴィッド・ミリバンド  
2005年の就任スピーチ

# Hafencity, Hamburg, Germany

「ハーフェンシティ」は、エルベ河の旧関税地区の都市開発である。住宅、教育施設、商業施設、文化施設を擁する一大開発である。開発地域は、ウォッチタワーを設置して一般の人々が川辺の開発を見学することができる。また、工事は公共空間から竣工されており、人々がエルベの水辺を楽しむイベントなどが行われることで、開発途中から水辺都市に親しむデリバリーが工夫されている。また、都市のビジョンは、ユネスコ保護指定のボイラー倉庫のコンバージョンで、年間20万人が訪れる。



## Newcastle/Gateshead, UK

タイン川をはさむ双子都市ニューキャッスル市とゲイツヘッド市は、20世紀半ばまで、鉱業、造船業などで栄えた後、衰退。1998年に英国の美術家アントニー・ゴームリーの巨大彫刻「Angel of the North」がゲイツヘッド市に設置されたのを端緒に、二都市が手を組んで文化による都市再生に着手し、タイン川の両岸を結ぶ、新たな先端的な創造都市として生まれ変わる。河岸エリアに建設された現代美術館、音楽ホール、橋などによって、印象の強い風景をつくり出している。



ニューキャッスル／  
ゲイツヘッド

# Bordoux, FRANCE

ボルドーの都市開発計画は、鉄道を中心とする市街地計画と、ガロンヌ川の東側の、開発の遅れていた低所得者が多く住む郊外エリア開発と西側の歴史的旧市街とを結びつけることが意図されている。西側には石畳の広場や噴水などが連続し、旧造船所エリアは美術館や飲食などの文化的エッジエリア。東側はボルドー地方に植生する植物による植物園が、新築の低層マンション群の間にあったり、自然を活かした広い空間に生まれ変わった。東と西をつなぐトラムは、川も含めた都市の風景を楽しむ乗り物として考えられている。



## 世界の都市の水辺から

- ・ 水辺はまちの中心
- ・ 両岸を「つなぐ」アイデアとデザイン
- ・ 水辺からまちなかへ、まちなかから水辺へと「つなぐ」デザインとアイデア
- ・ 川を中心にした
- ・ 地域性、場所性を活かした環境づくり
- ・ 水辺の産業遺産を活かす
- ・ 市民のものとしての公共の整備
- ・ 自分たちごととしての公共を楽しむ作法のデリバリー

市民に水辺の使い方と作法を感じさせる大人のデザイン





Picnopolis Newcastle Gateshead (2008)



Picnopolis Singapore night picnic in Marina Bay (2010)



photo: \*\*\*roham\*\*\* @Flickr